

問題発見技法 課題2

【課題】

与えられた紙切れについて KJ 法を実施し、A 型図解をつくる。

ただし、紙切れを纏めるときは**ボトムアップの視点**で似ていると考えられるものを纏めること。トップダウンの視点、つまり紙切れ全体を観て分類するというやり方は KJ 法ではない。

【レポートの書き方】

★ PowerPoint などでも A 型図解を作成し、PDF に変換して提出。なお、レポート全てを 1 つのソフト（例えば PowerPoint）で作ると PDF に変換するのが楽です。

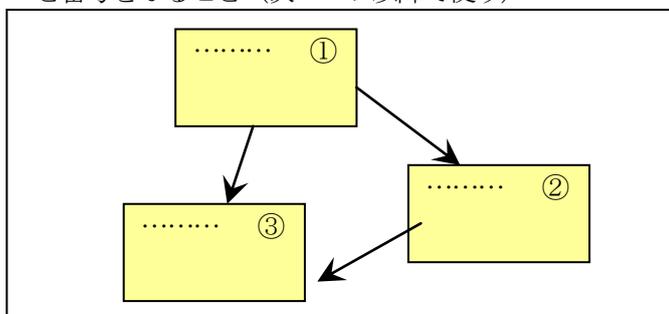
1. 1 ページ目 **【議題・名前他】**

中央やや上に「問題発見技法」「課題2 KJ 法」を書く。右下に「グループ名」及び「参加メンバー全員の学籍番号・氏名」を一行ずつ書く

2. 2 ページ目 **【I. A 型図解 全体図】** (PowerPoint1 枚目)

A 型図解の最終形を、**はらわた出しをせずに**書く。大グループの紙切れには①、②、③、…と番号をふること（次ページ以降で使う）

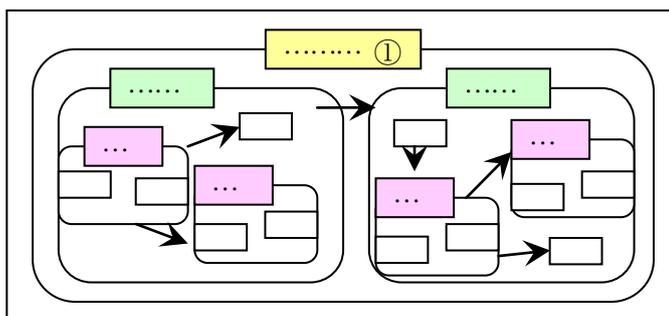
例)



3. 3 ページ目以降 **【II. A 型図解 部分図】** (PowerPoint2 枚目以降)

大グループ (①, ②, ③, …) それぞれについて、PowerPoint で 1 ページずつを使い、はらわた出しをした関係図詳細を描く。

例)



4. 最終ページ **【III. 得られた知見とその考察】**

Ⅲ-1 『A 型図解の全体図に関する説明・考察』を簡潔に書く。

Ⅲ-2 『グループ化する際に「面白い」「新しい発想が得られた」と思う部分 2 カ所以上の説明・考察』を簡潔に書く。

【提出期限・提出先】

★ 提出期限：11月30日(月) 21:00

★ 提出先：「public ¥jugyo ¥joho ¥経営情報学科 堀田 ¥09 問題発見技法 ¥課題2」

★ 提出 PDF ファイル名「09htf_rep2_group○.pdf」とする。○にはグループ名(例:A)を入れること。なお、提出期限内なら提出ファイルを何度上書き保存してもよい。

問題発見技法 課題2 発表会

【概要】

12月1日(火)授業時に、課題2に関する発表会を以下の要領で行う。

- △ 各グループ代表2~3名が発表。そのうち、1名はPC操作係
- △ 提出したPDFファイルを見せながら、以下の2つを必ず含めて発表する
 - 内容1: A型図解概観。レポートのA型図解全体図を表示し、説明。
 - 内容2: 特に面白い、伝えたいと思うグループ化の部分と新たに得られた知見・発想について説明
- △ 1グループ3分以内(短すぎても、超えても駄目。2分45秒~3分が理想)
- △ 時間がないので、発表開始・入れ替えを迅速に。次に発表するグループは、脇に控えて待っていること。
 - 15:00~15:30 グループA, B, C, D, E, F, G, H, I
 - 15:30~16:00 グループJ, K, L, M, N, O, P, Q
 - 16:00~16:30 グループR, S, T, U, V, W, X, Y

- △ タイムキーパー(ストップウォッチ係、ベル係)
 - ストップウォッチ係は発表者・聴衆に向けて**発表開始の合図**をし、3分間を測る。
 - ベル係はストップウォッチ係と連携し、2分で1回鳴らし(チーン)、3分で2回鳴らす(チーン、チーン)。まだしゃべっていても3分で強制的に打ち切ること。
 - 15:00~15:30 → Rグループから2名
 - 15:30~16:00 → Jグループから2名
 - 16:00~16:30 → Aグループから2名

【評価・投票】

- △ 聴衆は、25グループの発表を聴いて、KJ法として「優れている」、「面白い」、「良かった」「新しい発見を示してくれた」と思うグループを、**時間区分毎に最大4つ**選び、投票用紙に○をつける。自分のグループを選んだ場合は無効。5つ以上○をつけた場合も無効。
- △ 投票用紙には、学籍番号・名前も記入し、自分のグループは四角で囲い塗りつぶす。きちんと記入していないものや、自グループの塗りつぶしが無いものは無効。

例) グループHの人の投票用紙と記入の仕方↓

	学籍No. A8P21xxx					氏名: 文教 太郎				
15:00~15:30	A	ⓑ	ⓒ	ⓓ	E	Ⓕ	G	■	I	
15:00~15:30	J	K	L	Ⓜ	N	ⓐ	P	ⓠ	R	
15:00~15:30	ⓢ	ⓣ	U	ⓕ	ⓖ	X	Y			

- △ 発表会終了後、**グループ毎に**回収。グループの代表者が学籍番号順に左上をホチキスで留めて提出する。